

高津生が見るトロッコ問題

社会班：橋 虹輔 城臺 祐作 福島 颯太 上田 乃亜

1. はじめに

マイケル・サンデルさんの「これからの『正義』の話をしよう」を読み、トロッコ問題に興味を持った。高津生がトロッコ問題をどのように捉えるかを調べることにした。

2. 実験方法

トロッコ問題の捉え方を調べた。

(アンケート 1)

あなたは電車の運転手です。電車が暴走していてブレーキがききません。前方に5人の作業員が線路上に立っています。このままでは作業員たちは確実に死ぬものとします。隣の線路にも作業員が1人います。右にハンドルを切れば5人は助かるが、1人は死にます。

- ① あなたならハンドルを切りますか。
- ② 1人側の人間が親しい人ならどうしますか。

(アンケート 2)

あなたは傍観者です。1本の線路を見下ろす橋の上に立っています。電車が暴走していてブレーキが利きません。5人の作業員が線路上に立っています。このままでは作業員たちは確実に死ぬものとします。そのとき隣にとっても太った男性がいることに気がつきます。その男性を橋から突き落とせば電車を止めることができます。その場合男性は死にます。(自分が飛び降りても小柄なので電車は止まりません)

- ① あなたなら男性を突き落としますか。
- ② 太った男が列車を暴走させた犯人ならどうしますか。

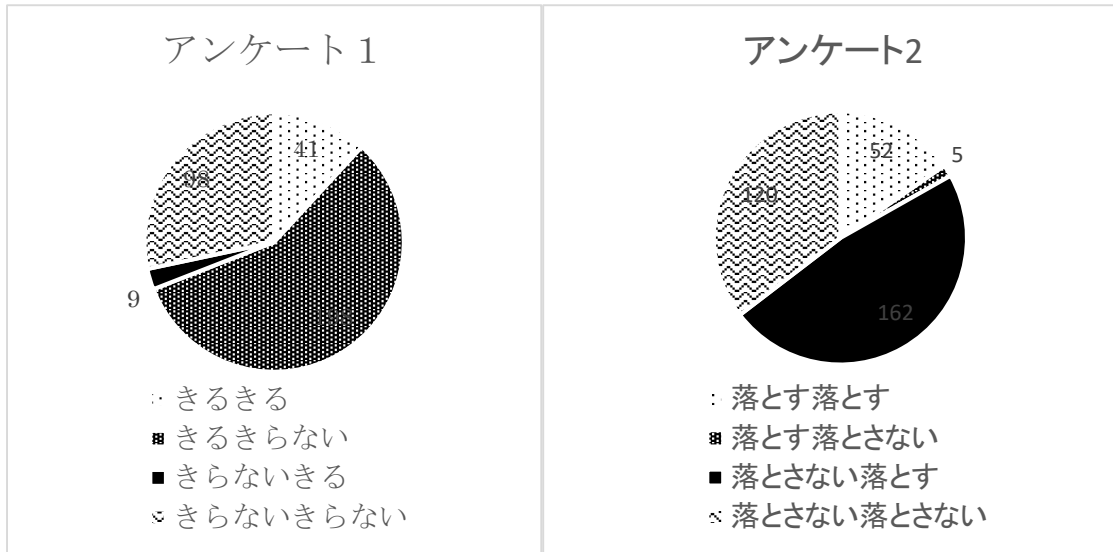
3. 結果・考察

(アンケート 1)

- ① ハンドルを切って5人を助ける人が多かった
 - ② ハンドルを切らずに親しい人を助ける人が多かった。
- ⇒高津生は家族であれば選択を変える。

(アンケート 2)

- ① 太った男性を落とさない人が多かった。
 - ② 太った男性を落とす人が多かった。
- ⇒男性が犯人であるならば、犠牲にしてもいい。



4. まとめ

本の中で出てきた二つの思想

- ① 功利主義…行為や制度の社会的な望ましさは、その結果として生じる効用によって決定されたとする考え方、「最大多数の最大幸福」を目指す。誰しも苦しいことは嫌いで、楽しいこと、快楽を求めるのだから、道徳というものは、人の喜びに基づくべきだ、と考える。
- ② 共同体主義…宗教や政治信条、価値観の多様化する多元的社会では、市民の義務や社会の共通善とは何か、すなわち、「より良い生き方」とは何かを世界的視野に問い、公共の場で議論し、分かち合うことで相互尊重（リスペクト）が成り立ち、公正な社会が実現すると考える。

アンケート1では功利主義の傾向があるどんな状況でも助かる人数を優先した人が約1割、共同体主義の傾向がある家族や友人を守るために判断を変えた人が約6割、アンケート2では同様に助かる人数を優先した人が1.5割、犯人以外の人を救うために判断を変えた人が約5割であった。よってアンケート結果から高津生は共同体主義の傾向があると考えられる。

さらに考察を深め、この研究は昨今話題である自動運転の自動車の開発に生かしていけると考えた。自動運転の自動車のブレーキが利かなくなり、上記のようなシチュエーションに陥ったときにどちらにハンドルを切るのかプログラミングするときにも、この研究結果が役に立つのではないかと考えられる。

5. 参考文献

これからの「正義」の話をしよう（著：マイケル・サンデル）
 出版：ハヤカワ・ノンフィクション文庫）

